

## 環境と調和したゆたかな暮らしの実現



ごみ排出抑制やリサイクル促進のほか、エネルギーの有効利用など、地球温暖化防止に向けた施策を推進。身近なものから地球規模の環境保全まで、幅広い分野を盛り込んでいます。また、緑や水辺を生かした都市空間づくりや豊かな冬の暮らしの創造などにも取り組めます。



### エネルギー有効利用都市の実現へ 新システムの導入や調査・研究を推進

雪や排熱など、自然・未利用エネルギーの活用方法について、多角的な調査・研究を進めていきます。

平成十一年度から始めた「雪の冷熱エネルギー利用基礎調査」では、都心北融雪槽に集められた雪を札幌駅北口周辺の地域冷房に活用するための実証実験を行います。また、燃料電池やマイクロガスタービンといった分散型の新エネルギーシステムの研究にも着手。国や大学、企業との産学官連携を図りながら、北

国にふさわしいエネルギーの有効利用を考えていきます。一方、都心部や厚別地区での熱供給事業運営会社に対し、環境負荷の低いプラント導入に係る事業費の一部を補助します。

平成十五年に供給開始予定の札幌駅南口地区の熱供給事業では、コージェネレーションシステムの発電排熱や深夜電力を熱源としたプラント（機械装置・施設）を導入。また、厚別地区では、熱源である厚別清掃工場の廃止に伴



都心北融雪槽への投雪の様子。「利雪」の観点を取り入れた研究を進めていきます

う代替熱源として、ガスや石油に比べて二酸化炭素発生量の少ないリサイクルエネルギーであるRDF（ごみ固形化燃料）を主な熱源とするボイラーを整備します。一つのエネルギーから熱と電気など二つ以上の有効なエネルギーを取り出して利用するシステム

### 市民の皆さんの要望が多い 除雪・雪対策関連費の 総額は約166億円に



昨年8月に公表した「雪対策基本計画・アクションプログラム」を着実に推進し、効果的な除排雪を行っていきます。車道除雪は約5,000<sup>㎡</sup>、歩道除雪は約3,300<sup>㎡</sup>、運搬排雪は約1,800<sup>㎡</sup>で実施。特に、プログラムの中で重点項目として掲げた交差点付近の除排雪や凍結路面对策を強化します。また、生活道路の排雪費用を地域と市が負担するパートナーシップ排雪は約1,100<sup>㎡</sup>で実施します。

一方、地域の雪を地域内で処理する

体制の確立を目指し、下水処理水や排熱などを活用して雪を溶かす雪対策施設の整備も計画的に進めます。住民が直接雪を投げ入れる流雪溝については、6カ所目となる琴似流雪溝（西区）が完成するほか、北郷（白石区）でも建設中です。また、トラックで運んだ雪を溶かす融雪施設は八軒（西区）に7カ所目が完成します。

このほか、市内2カ所に夏期はレクリエーション施設としても利用できる雪たい積場を新たに整備します。



### 地球温暖化防止へ向け 省エネ型の生活スタイルを提案

地球温暖化の原因の一つである二酸化炭素。本市では、市民一人当たりの二酸化炭素排出量を、平成二十九年には、平成二年より一〇%削減することを目標としています。

この目標達成に向けて、「環境を考えて暮らす一週間」運動を九月をめどに展開します。この運動は、簡易な環境家計簿を使って、どれだけ二酸化炭素を減らせるか検証す